



第1回 交流会

2015年11月1日(土)、本日はお天気もよく風もなく、沢山の人には出会いましたが、ゆっくり歩く私たちには広い空間があり、混雑した感じがなにも無くて森を一人占めの感じがありました。

交流会のテーマ「森の迷句」づくり

- 方法 ①前回、友達と森に入ったとき作ってもらった迷句を3句紹介。
- ②参加者全員に5枚ずつ、長方形の紙とマジックを配布、歩きながら、気づいたことなどを上の句、中の句、下の句と分けて書いて貰う。
- ③エノキのテラスは他の人数も少なかったので、まとめをする。



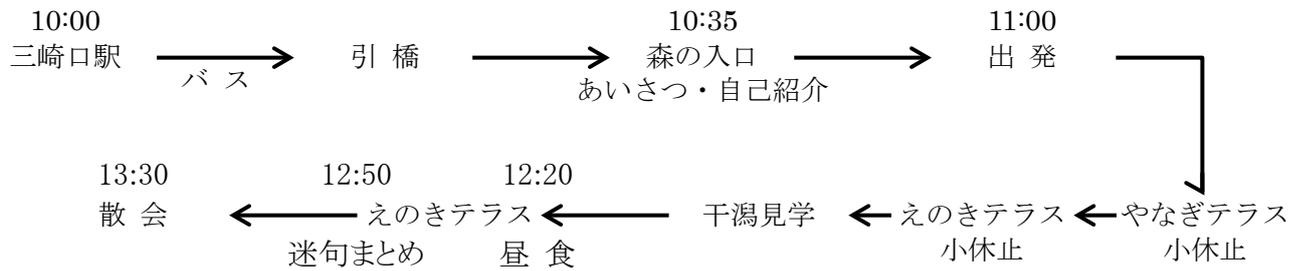
上の句、中の句、下の句の入った袋から一人、1枚、3人にランダムに取り出してもらい、3句をテープで止めた後、全員で読んでもらう。

かずらの木	落ち葉降る	ジュスの玉	あきあかね	ちよっぺい	ゆるやかに	高野ぼうき	キキキキと	はげの木に	からすうり	女郎グモ	イヌタネヤ
つるがたれてる	たで食う虫も	ヨシが波打つ	名前もしらぬ	トンボ群れ飛ぶ	くさ木のおい	袖に止まりて	さわさわさわと	むれ飛ぶ原に	葉を光らせて	赤い実青い実	みきのさきには
小網代の秋	ななめって	フルトップ	ジョロウグモ	からすうり	風の音	我忘れ	百舌が鳴く	やくじぞう	じょうろうくも	ちよっぺい	ふじのはな

1句読むごとに大笑い、うなづく顔で皆さん満足できました。

みんな同じ処で過ごしたので、言葉の環境も同じになって、偶然にしても面白い句ができたとの意見がありました。また、来る季節が違うので、同じことをやっても面白いのではないかと意見も出ていました。

今日のコース



ご参加の皆さまからコメントをいただきました

ノコンギクの系統、ヨモギゴールについて、次回までに勉強しておきます。

雑草についてもっと知りたいので、本を読みます。

地元の周辺の人にも、うるおいを与えることを考えていただきたい。

いつもと違って一句考えながら、ゆっくりと歩いたので、新鮮なオドロキがあった。

森は昔とだいぶイメージが変わった。この後も油壺の方までふらふらと歩いて楽しみたい。

あれしなきや、これしなきやというのがなく、ゆったりとみんな楽しんでながら、というのが嬉しかった。

いろいろ教えていただき、たのしかったです。

以前は絵を描きながら歩くというのもやりましたが、俳句のほうが楽。

専門的ではないのがいい。みなさんの顔を見て安心するために来ます。

新しい会は、みなさんのご意見・ご要望をとりいれていきたい。

たのしくて、毎月やってもいいくらいと思った。

次回が楽しみです！

今日の小網代 1月17日 凜とした森を静かに歩くと、一呼吸ごとに森の精が肺に流れ込みます。時空の中では簡単に一体感を味わえる瞬間がときたまあるのですが、今朝の森がそうでした。風もなくうす曇りのうすら寒い中でも、さみしさは感じません。

小網代を詩う

小網代 健在！

中井 由実

バスを降り、ゆっくりと森の入り口に向かう人たち
木道の手すりごしに斜面の枝を指差す

初めて来た人は幸せだ
眺めるだけの森で満足できる

プラスチック製の木道から

私は浦の川に向けて身を乗り出す

ヒメウズ なんて遠い花になってしまったのか

ゴムの靴底が歩くたびに響くカンカンという音で

鳥たちの声も聞こえない

森を残すとは こういうことだったのか

肩を落としてたどり始めた北尾根の道

陽の当たる一角で

スマイレの花が私を見上げているのに気づいた

かがんで そおっと花びらに触れる

これまで

ずっとこんなふうには花と遊んできた

すぐ近くには短いタンポポ

寒風の中 しゃんと花びらを伸ばし

いつものように微笑みを返してくれた

これが小網代

しよげていた私に声をかけてくれる

ここに来ればいいよ！

尾根の上に広がる大根畑とキャベツ畑の間に立ち

振りかえれば雪を乗せた富士山

新年

これからもよろしく

小網代



ふわふわ

中井 由実

秋には

遠目にもぴっちり詰まって硬かった

ガマの焦げ茶色の穂が

叩いてほぐしたようにふくらんでいる

今日の陽に干されてふわふわ

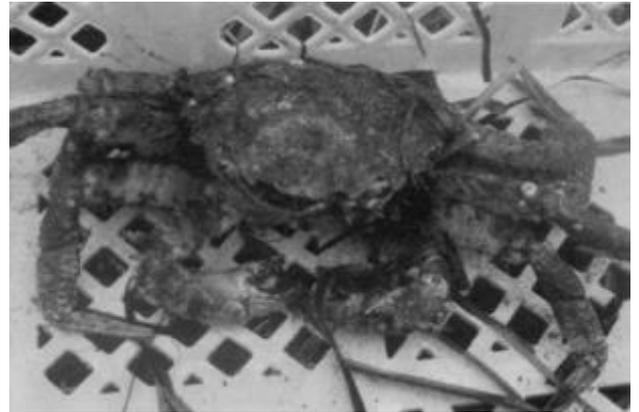
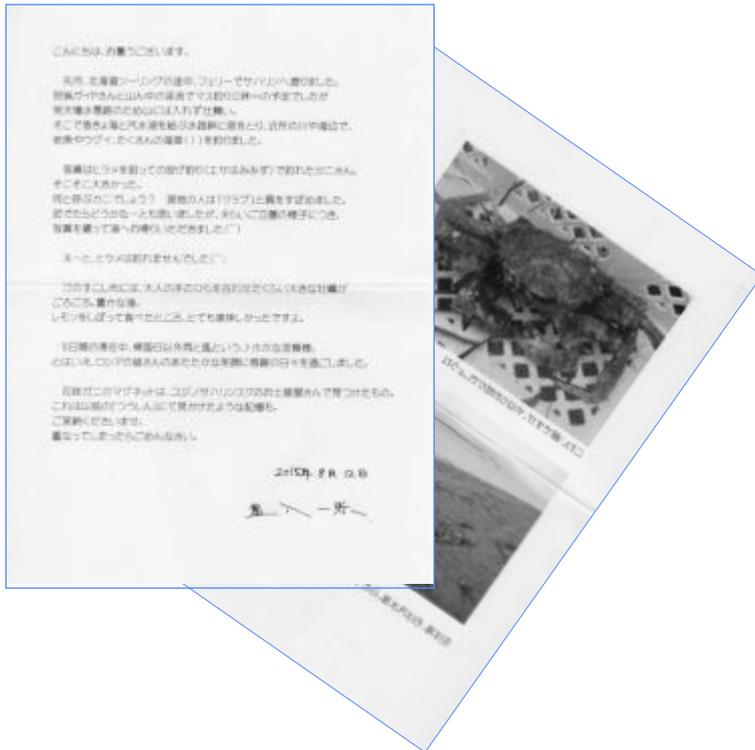
こんな綿毛なら

赤はだかになった白うさぎも

確かに治ってしまっただろうと

一人 うなずいてしまった

サロン小網代



こわい顔ですが、やはりお怒りでしょうね



左は海、右は汽水湖。ふたつをつなぐ水道のあたり。

こんにちは、お暑うございます。

先月、北海道ツーリングの途中、フェリーでサハリンへ渡りました。狩猟ガイドさんと山中の溪流でマス釣り三昧・・・の予定でしたが荒天増水悪路のため山には入れず仕舞い。そこで急きょ海と汽水湖を結ぶ水路畔に宿をとり、近所の川や海辺で、岩魚やウグイ、たくさんの海草(!)を釣りました。

写真はヒラメを狙っての投げ釣り(エサはみみず)で釣れたカニさん。そこそこ大きかった。

何と呼ぶカニでしょう? 現地の人は「クラブ」と肩をすぼめました。茹でたらどうかなーとも思いましたが、えらいご立腹の様子につき、写真を撮って海へお帰りいただきました(^)

えーと、ヒラメは釣れませんでした(^;)

汀のすこし先には、大人の手のひらを合わせたぐらい大きな牡蠣がごろごろ。豊かな海。レモンをしぼって食べたところ、とても美味しかったですよ。

5日間の滞在中、帰国日以外雨と風という、トホホな空模様。とはいえ、ロシアの皆さんのあたたかな笑顔に感謝の日々を過ごしました。

花咲ガニのマグネットは、ユジノサハリンスクのお土産屋さんで見つけたもの。これは以前の『つうしん』にて見かけたような記憶も。ご笑納くださいませ。重なってしまったらごめんなさい。

2015年 8月 12日

塩 / 一斉



随 想

随想 小網代てんでん ⑳

旅人のよろこびーセンニンソウ

須田漢一

人はいつも旅をしている。砂漠や山岳、海辺や原野、そして見知らぬ町を。

それだけではない。自らの心の中でも旅をしている。苦難に満ちた旅。悲しみの旅。恐怖の旅。感傷の旅。そして映像や演劇、音楽、絵画、夢の中でも旅をしている。

旅、といえ、かつてキンポウゲ科のセンニンソウに近い植物を、イギリスで「旅人のよろこび」(トラベラーズ・ジョイ)と呼んでいた。旅はよろこびばかりではないのに、なぜ、旅人のよろこびなのだろう。

八月下旬「小網代の森と干潟を守る会」の人たちと、引橋から下って、森に新設された広く歩きやすいボードウォークを、ミズヒキや、シロバナサクラタデに秋の訪れを感じながらヤナギテラスに着いた。

そこに、センニンソウが輝いていた。テリハノイデラヤスキを押さえるように、ぱつと開いた沢山の雄しべが眩しい。十字型をした4個のがく片は

花のようだ。

キンポウゲ科・センニンソウは、陽当たりのよい道端や、森の縁、草はら、時には線路沿いの土手やバラスの上で見かけるつる性の野草で、5・6枚の小葉が集まった羽状の複葉をつけている。木質化した茎から枝をはびこらせ、葉の脇から出た柄が、まわりの草や木にからみつく。こうした特徴をもつセンニンソウが、なぜ旅人のよろこびなのだろう。疑問のまま月日が過ぎ、十月下旬にふたたびヤナギテラスを訪れた。

センニンソウが無い。切り株も残っていない。雌しべの花柱が伸びてできた、茶色くやせた種子(瘦果)はどこへいったのだろう。種子のまわりに、細い毛がヒゲのように生えていることから名付けられた、「仙人草」は、どこに消えた……。軽くなつた種子が風で舞い上がり、何かに引かれるように飛んでいく、あの姿が見られない。

一般に果実、種子、胞子といっているものは、自ら動くことのできない植物が、限りあるおのれ(いのち)の生命をふりしぼって、子孫を残そうとする働きである。別の言葉で言えば、できる限り子孫を広範囲に広げようとする旅たちでもある。

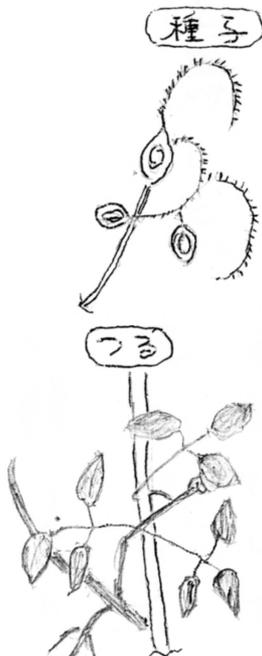
その移動方法として、センニンソウは風力を選んだ。そう。

旅人の喜びとは、旅する人がセンニンソウに出合つて喜ぶことをいうのではない。センニンソウの種子が新たな地を求め、喜々として大空の下を飛んでいく姿を、よろこびと表現したのだ。

1億5千万年前の中生代・ジュラ紀に誕生した被子植物センニンソウは、遙かな旅を続けてきた。生物の大量絶滅、温暖化、寒冷化の繰り返し、大陸の移動など多くの試練を乗り越つてきた。現世の人類は300万年前の鮮新世に誕生したというから、いわば大先輩なのだ。その生活史には畏怖を覚える。

長期にわたる修行のなかで、不老不死の術を得たという仙人は、とつとこの場所から旅立つたと思いたい。仙人にはよけいなことかも知れないが、道中御無事で、と祈る。

(2014. 8 / 31・10 / 25 観察)



質問コーナー

みんなで考えよう！！みんなで感じよう笑おう感心しよう！

第1回



森や海っぺりを歩いていますと、ときどき、あれえ？と疑問が湧いてきます。しかし、今さら、こんな質問しても、ということ、ありませんか？そういうの。みんな(会員のみなさまです！)で、このページに、持ち寄って、お互いに知恵やユーモアや、豊かな感性と経験を出し合いながら、「こあじろの森くらぶ」のメンバーの交流のページに、しませんか。

「こあじろの森くらぶ」は、本当に人材が豊富ですから、いろいろな、お考えを期待しています。正解っていうことにこだわらないお返事、ユーモアたっぷりのお答え、大歓迎です。もちろん、専門家による、科学的に正しいとされている見解も、発表いたしますから、ご心配なく。

質問もどしどしお寄せくださいね。どんなことでも！

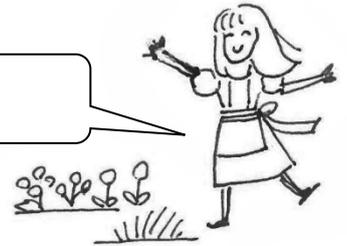
例えば・・・



氷はどうして融けるの？ ①

春になるからだよ

こういうの、大歓迎です！！



では、今さら聞けない質問:



木の葉は、どうして、秋になると、色が変わるの？ ②



海はどうして青いの？
すくってみても、色はないよ。 ③



海の色がところどころ違うのは
どうして？ ④



花はいつ自分が咲くってわかるの？
自分で決めているのかな？ ⑤



海にはどうして波があるの？
湖にも波ができるときはある？ ⑥



アカテガニは、満潮だって、
どうしてわかるんだろう？ ⑦

その日は
企業秘密

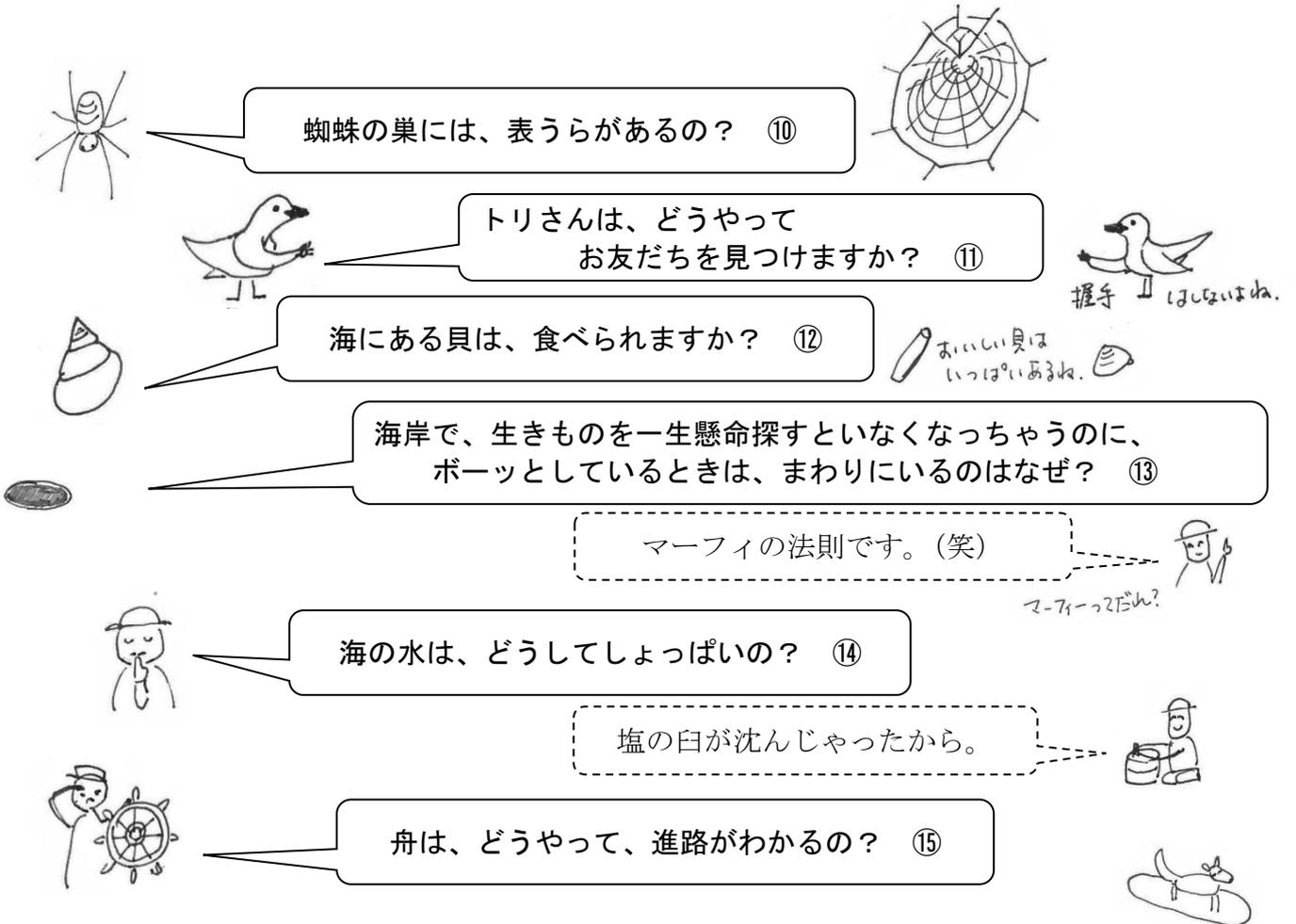


トリは、どうやって胸筋を
鍛えているんだろう？ ⑧

子Iか... こはは
腹筋



トリの鳴き声には、種類がありますか？ ⑨



みなさまのユニークなお答え、下記まで、お寄せください。
もちろん、みなさまの質問も受け付けております。楽しみにしております。
知恵を、みんなで寄せあって、楽しいコーナー、楽しいクラブにいたしましょう！！

締め切り： 質問に関しては、随時受け付けます。
質問の答えに関しては、今回2月28日をとりあえずの締め切りとさせていただきます。
でも、思いついたら、いつでもどうぞ！

投稿先:

★Eメール watashitachino@mori-club.com

お願い:メールのタイトル(Subject)に「くらぶ通信投稿」と入れてください。

★ファクス 03-3774-9704 (FAX 専用機・24時間受信可)

投稿する際のお願い:

氏名、(あるいはペンネーム)氏名公表に不都合な方はその旨、銘記ください。
質問番号 と答え。あるいは、質問。(イラスト図表つきOKです。)
お差し支えなければ、ご住所。(森歴とか?)ひとことアピールもどうぞ。
よろしくお願ひいたします。

(企画:森くらぶスタッフ 進行:会員のみなさま)

お花でおしゃれな春の森



ジポーリン菜穂子

この「つうしん」がお手元に届く頃には、三浦海岸の河津桜も、ほころび始めているでしょうか。暖かくなるにつれ、庭先や道ばた、森では、次々と、いろいろな花が開いていきます。そして、さまざまな色が添えられていきます。寒い冬を経て、日射しも暖かくなり、あたりが明るくなってきたとたんに、パステルカラーで身を装うなんて、森は、とてもおしゃれ。春だけではありませんよね。それぞれの季節ごとのおしゃれが、森は、とってもお上手。お手本にしたいです。

人は、お手本にしたい、となると、真似をします。『森の生活』の著者で、アメリカ合衆国の誇る森の賢人、ヘンリー・デイビッド・ソー（1817-1862）は、『自然』などの著作を著し、超越主義哲学を提唱したアメリカの思想家、ラルフ・ウォルドー・エマソン（1803-1882）をとても尊敬していました。しゃべりながら、鼻に手をやる仕草がそっくりだったそう。ソーも日記に「尊敬する人に似てくるものだ」と書いています。ところがです。ソーのお母様は、「エマソンさんは、うちの息子にとっても似た話し方をなさる」とおっしゃったそう。エマソンは、息子にとってハーバード大学の大先輩なのに、です。子への絶大なる信頼、ありがたい、のか、どうなのか……。ソーは、メイン州の森で、浮き世と隔絶した生活を送ったことを本にしていますが、実はね。ソーの山小屋、お母様のいらっしゃるご実家に、ホップステップで行ける距離だったそうですよ。で、時折、お母様がクッキーを差し入れてくれていたそうですから。ええ〜っ。それじゃ、自宅の庭先に TENT を張っているようなものかしらん……。

さて、ソーが森で生活しようと思った理由はこうです。

森へ行ったのは、しっかりと考え、人生の本質的なことのみを見つめ、人生が教えてくれるものを、しっかりと受けとめることができるかどうか、確かめてみたかったから

そして、今際の際（いまわのきわ）にとなったときに。

自分が生きてはいなかったことを発見するようなことになりたくなかったから

だったのですって。本当に大事なものを、しっかり見極めることができたなら、そして、それを大切にしていけることができたなら、仕合せでしょうね。ソーは、お洋服はツギがあたっていたって、暖かければ十分だと。生きていく本質には関係ないですから。情報のための新聞も、通信手段の郵便局もいらないうって書いています。人生の髄に必要なことってそんなにないよ、ということなのですね。こういうソーの考え方や生き方はすてき。お手本にしたいと肝に銘じつつも、つつい、もう一枚新しいセーターを……。そして、つつい、マック（パソコン）に手が……。本当にたいせつなこと、見失ってしまいがちなのかな。

さて、自然をお手本にして、真似（ミメシス）をしてできるのが、芸術だと考えたのが、古代ギリシャのアリストテレス（BCE384-322）。『詩学』という書物のなかで、「芸術は、自然を模倣する」と述べています。アリストテレスによれば、芸術はすべて、模倣（ミメシス）から始まるのです。それからアリストテレスは動物界の分類も行いました。『動物誌』で、虫や海の甲殻類などの無血動物と、魚や鳥や私たちの有血動物に分けて説明しています。人体

の解説も詳しい。「万学の祖」と言われていますね。ピタゴラスの定理のピタゴラス(BCE584-496)なんかも。根源は数だ、と考え、音楽も、数で説明しました。古代ギリシャの人たちは、世界を、自然科学や人文科学、社会科学といったような仕分けをしていなかったのですね。東アジアの「本草学」にも通じるところがあるような。どうでしょうか。現代は、一周まわってきたのでしょうか。米国ジョンホプキンス大学では、哲学科の教授が化学科の専門講義も受け持っていたりします。哲学も分子のレベルなのか、分子をつきつめると哲学になるのか. . .。

さて、19世紀の世紀末。『幸せの王子』でおなじみ、オスカー・ワイルド(1854-1900)は、自然は芸術を模倣する、と考えました。おしゃれ。古代ギリシャからはひと周り。でも、たしかに。森でも、まるで、モネの絵みたいねえ、とか。いやいや、ターナーでしょ、とか。よく話しますよね。はじめに美、ありき、ですね。

春の森のおしゃれさんの筆頭は、言うまでもなく花でしょう。みなさまのお好きな花は何ですか。持って帰って、ブローチや、ピンにしたいような花もたくさんです。「解語の花」なんて言葉もあります。文字通り、言語を理解する花、です。なんだろう。楊貴妃(719-756)のことです。唐の玄宗皇帝(685-782/ r712-756)が、蓮池のほとりを、楊貴妃と歩いていると、蓮の花が開いていきました。お供の人たちは、その美しさにうっとりですが、玄宗皇帝ったら、「わしは、言葉がわかる花の方が、よいのう。うふふ」とかっておっしゃったのですね。それから、解語の花、美女のたとえに使われます。



江戸時代の文学ジャンルに洒落本(しゃれぼん)というのがあります。当時は何しろ、中国風がおしゃれ。それで、この洒落本の表紙も、中国風を気取りながらも、それをパロディにします。めちゃくちゃ面白くて、おしゃれです。その祖型とされている作品の序には、この「解語の花」が出てきます。楊貴妃でなく、江戸の女性たちのことです。日本の花といえば、言うまでなく、桜ですが、中華を気取るので、花も、中国風に。喩えたお花は。まずは、梅。それから、桃に李(すもも)に、海棠です。大風が吹いたって、霜がおりたって、自然界の花とはちがって、江戸の女性は、きれいなまんま、だそうですよ。

中国大陸の王朝への憧れは、なにも江戸に始まったことではなくて。『万葉集』にも、梅の句が。桜の句ももちろんあります。明治になりましたら、憧れは、ヨーロッパに移りましたけれど。『坂の上の雲』ですね。

さてさて、私たちの時代。たいへん便利になりました。何しろ、「写メ」なんてことばが、もう懐かし用語になってしまいました。画像を使いこなすことが容易になった分。言葉を何とか工夫して、気持ちや情景や、そういうもの、なんとか伝えようと工夫することが少なくなってきたような。心配しすぎならよいのですが。言葉から、私たち、遠くなくなってしまいつつあるような気がしています。たとえば、富士山が冬空に雪を冠して凜としている様子。言葉を尽くさず、画像で一発 OK! 画像がないとなると、ヴァニラジェラートみたい、だの。絶妙なる粉砂糖のまぶし具合、だの。あの斜面そりですべてみたい、だの。神々しい、だの。今日はきっと良いことがあるよ、だとか。関東で暮らしていてよかった、とか。あるいは、ただただ美しい、とか、秀麗富士* とか。

はたまた、魅力的な方には眉目秀麗とか。そして、おしとやかでたおやかですてきな女性だって伝えたいときには、こんな言い回し。

立てば芍薬、坐れば牡丹、歩く姿は百合の花

ここで、みなさまに、お尋ねしたいことがあります。みなさまは、もしお花にたとえてもらえらしたら、どんなお花がよいですか。あるいは、たとえてさしあげらしたら、どんなお花にたとえてさしあげたいですか。そして、それは、どうしてでしょうか。理由まで、教えていただけますと、うれしいです。

下記まで。お待ちしております。

★Eメール watashitachino@mori-club.com

お願い：メールのタイトル(Subject)に

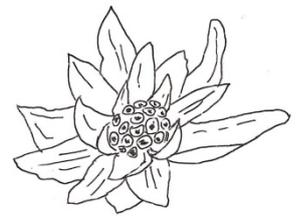
「くらぶ通信投稿」と入れてください。

★ファクス 03-3774-9704 (FAX 専用機・24 時間受信可)



参考にした本：

- ソロー『森の生活』（岩波文庫や講談社学術文庫で）
 アリストテレス『詩学』『動物誌』（いずれも岩波文庫）
 『オスカー・ワイルド全集 全6巻』（青土社）「芸術論」は第4巻
 『開元天宝遺事 安祿山事蹟』（中華書局 2012）
 「遊子方言」『新編日本古典文学全集 80』（小学館 2000）



- * たしかに江戸時代には、「秀麗富嶽百景」などが描かれて、版画で摺られて、江戸の人たちの手で、愛でられていました。画像はふんだんにあったわけです。その反面、お江戸では、言葉遊びを、お殿様はもちろん、庶民も愉しんでいたし。たとえば、焼き芋は「八里半」つまり、ほとんど栗（九里）の味わい。あるいは、栗より美味なので、9+4<で、「十三里半」などという看板のお店がでていました。絵心、言葉の遊び心。サイド・バイ・サイドの時代ですね。私たちも、お手本にしたいです。江戸の精神的（スピリチュアル）な遺産を使い果たしてしまわないように。

既刊書籍のご案内



小網代の森の住人たち

著者 ジポーリン福島菜穂子 出版社 八坂書房
 定価 1500円＋消費税120円＝1620円 刊行日 2011年6月25日
 変形 A5判、144ページ ISBN978-4-89694-975-9



楽しい干潟学

著者 ジポーリン福島菜穂子＋小倉雅實 出版社 八坂書房
 定価 1500円＋消費税120円＝1620円 刊行日 2014年7月26日
 変形 A5判、152ページ ISBN978-4-89694-178-4

お求め方法：

① こあじろの森くらぶより購入すると 消費税分サービス なんと1500円に！

■ 郵便振替 口座番号 00290-6-137203（加入者名：こあじろの森くらぶ）

送料（1冊梱包含め180円）を添えてお振込ください。送料を入れて1冊1680円になります。複数冊の場合はお問合せください。

振込手数料はご負担ください。おまけにポストカードをプレゼントいたします！

② 書店で購入・お取り寄せください。

③ アマゾン(Amazon.co.jp)でも購入できます。

今日の小網代 2015.12月27日 初冬とは思えないような暖かい森中です。日あたりの良いいつもの斜面に、茂みの中へ隠れるようにしてシュンランが咲いていました。源流周辺では、ボランティアの方たちが伐採作業をしておられました。ほんとうにごくろうさまです。年の暮れ、この花の無い季節で目立つのは小さなクサギの赤い実です。やなぎのテラス付近で、タカ類の仲間風で大形なトリを確認。オオタカ、ノスリ、ミサゴとは羽先・腰・尾が異なりなにかわかりません。 S.S

こあじろ あ・ら・か・る・と

森を巡る逸話を不定期で 宮本美織 記

学 生時代を共に過ごしてきたのに、何故かその後の交流がなかった方々が、小網代の森を初めて尋ねるからと連絡してきました。熟女6名で森をじっくり歩きました。その中に俳句をたしなむ方が一名おいででした。句会に出したという句を頂きました。4句に貝偏に鳥の字がありました。音読みで「ケキ」「ゲキ」訓読みで「もず」こんなことを初めて知りました。

噴くままに ほっけて蒲の立ちにけり
 藤蔓の太太と垂れ 冬に入る
 爪赤き蟹や椎の実 踏み行けば
 鴉 ^{もず}啼くや 密やかな森 湾抱く

浜荻や潮に一筋真水かな
 森守る女の言霊真弓の実
 溝蕎麦の群れて咲く野や 陽の淡し

ちなみに 図々しくもこの方々に会員交流会でやる迷句づくりもお試しで、やらせて貰いました。皆さん、喜んで下さりよい一日でした。(11月26日)

夏 に森を歩き、油壺のマリンパークまで行った鈴木さんが蟹グッズを見つけてかにコレクションにとくださいましたので、ご披露します。(12月5日)

蟹の財布・・・ はさみの力強いこと!!



蟹のクリップ・・・ 色はいろいろある



マ ツザカ羊歯が小網代にはあるから見ておいてね。3年前に羊歯に詳しいNさんから言われていたのに 姿も調べずに、散策路を歩いていました。イワガネゼンマイとイワガネソウの違いはなどと見分けやすい羊歯をみてはどっちかなと考えるのが楽しみでした。今日は違いました。スタッフのNさんが羊歯図鑑を持っていたのです。保全区域から出て白髭神社に向う道で、葉の真ん中の白い縦の部分が目立つ葉の端が縮んでいる羊歯を見つけました。図鑑の定番です。どうも探していたマツザカシダのようです。家でネットでも見てみましたら、確かにマツザカシダ。山辺が生息地で、イノモトソウ科イノモトソウ属とありました。胞子のつき方が変わっています。



「Nさん、ありましたよ!」1月中旬、スタッフのNさんの撮った写真を見ていただきました。「確かにそうですね。三浦半島ならどこにでもあるわよ。」「・・・。」 (2016年1月14日)



スタッフコラム

加曾利貝塚を歩く 2015. 9. 3

千葉市若葉区郊外に、我が国最大の加曾利貝塚(国史跡指定)が保護されている。遙か遠い縄文時代の原形に近く保存状態は極めて良好、広大な自然公園として整備された中央には市立加曾利貝塚博物館が建っている。

旧石器時代である約2万年前の東京湾の地形想像図を見ると、地球の最寒冷化が進み三浦半島と房総半島は陸続きで中央には古東京川が流れていたと考えられる。神奈川県内の遺跡としては住居跡や石器が出土している、相模川を望む相模原市中央区の「田名向原遺跡(国指定史跡)」が知られている。日本列島に旧石器時代が存在するのを始めて確認したのは、戦後の昭和24年(1949)群馬県岩宿遺跡の発掘である。

約1万年前の縄文時代、やがて温暖化が到来して東京湾周辺の奥地まで海岸線が後退して縄文海進といわれている。縄文人の食料後としてのゴミ捨て場である、貝塚が作られるようになってきた。縄文時代は狩猟採集社会で、弥生時代以降は農耕社会といわれる。

貝塚発掘調査の記録によると、関東周辺には約1000ヶ所が分布しているという。横浜市や千葉市、さいたま市等の郊外周辺まで広がっていたと確認できる。その後、大規模な掘削調査の跡は風化や酸化防止のために埋め戻され、東京都大森貝塚の例では遺跡に記念の石碑が2ヶ所も建っている。

興味あるのは、着衣で旧石器時代はいずれの資料を見ても皆毛皮を着ている。ところが、縄文時代の衣装ではそれぞれ意見が異なっている。加曾利貝塚博物館では、草木を裂いて綴り着物姿である。横須賀市自然・人文博物館では、想像が出来ないので親子3人が岩礁で食べ物を漁る姿は素裸としている。

縄文時代の加曾利貝塚、発見は明治20(1887)年。当時の地名、千葉県千葉郡都村字加曾利にあったことからこの名称となったという。この場所は現東京湾沿岸から約10キロメートルも奥地に位置している。9000年前(縄文時代早期後半)には、ムラが出来てゴミ捨て場である貝塚が次々と築かれていった。縄目模様の縄文土器を用いて魚や貝、山野の動植物をアク抜き煮炊きして食糧にしたものと推定される。

後に、集団住居した推定約5000年前(縄文時代中期前半)我が国最大の貝塚で、直径130メートルの北貝塚と長径170メートルの南貝塚がつながり、8の字形をしている。それは広大なもので、多数の縄文人が親子代々使用していたものと考えられる。

貝塚は、貝殻のカルシウム分が酸性の土と中和して自然に保護され残ったものと推定されている。貝塚には、食糧として採取した残り物である貝殻や動物の骨の他に、様々な道具や装飾品等が出土する。それらを収集した加曾利貝塚博物館、さらに貝塚周辺の住居跡を大規模保存した野外施設公園として多くの人たちに展示公開されている。

特徴として貝塚内部を観察できる幾つかの地下道を設け、厚く積み重なった貝塚断面を直接に近く見ることができる。

加曾利貝塚の周辺には、次のような大規模貝塚が存在している。

荒屋敷貝塚(国指定史跡) 直径160メートル

月ノ木貝塚(国指定史跡) 東西150、南北200メートル。



加曾利貝塚 縄文人の食べた残した貝殻の層

加曾利貝塚に残された貝殻の種類

- | | |
|-----|---|
| 二枚貝 | ハマグリ、アサリ、サルボウ、ハイガイ、バカガイ、シオフキ、マガキ、イボタガキ、マテガイ、シジミ |
| 巻貝 | サザエ、アワビ、アカニシ、バイ、ウミニナ、カワニナ、ツメタガイ |

◎交通 JR成田空港行き、都賀駅乗り換え
千葉都市モノレールで
桜木駅下車、南方へ徒歩20分

祖父川精治

今日の小網代 2015.12月27日 絶好の森歩き日和の中、まだ紅葉の残るボードウォークの上にひときわ目立つのはムラサキシキブ。優美な薄紫の実が輝くようです。眺望テラスの先にはヤブツバキが葉の深い緑と赤い花のコントラストも鮮やかに、通る人の目

2016 年オリジナルカレンダー

こあじろの森くらぶオリジナルの卓上カレンダー、できました！

シックな色合いで森の息吹を感じるような写真を高品質に印刷しました。新月と満月のマーク付き、6枚セット1部を、送料込みの 582 円でお分けしています(森での販売はありません)。



1月・2月

モズ

撮影は 須藤伸三さん



3月・4月

オオシマザクラ

撮影は 松下景太さん



5月・6月

ツクサとフキバッタ

撮影は 加藤利彦さん



7月・8月

チゴガニのアップ

撮影は 松下景太さん



9月・10月

白花のノコンギク

撮影は 加藤利彦さん



11月・12月

クサギの実

撮影は 松下景太さん

お問い合わせは ☎ 046-889-0067 (仲澤)

を引きつけています。センリョウ・マンリョウ・ハダカホウズキ etc. etc.の赤い実も華やか、冬の森は思いっきりカラフルでした。そして可愛いタチツボスミレを1輪見つけたのが今日のお宝写真。 M.H

